



香川県教職員連盟機関誌
発行所: 香川県教職員連盟
発行者: 北村 顕吾
〒760-0004
高松市西宝町2丁目6番40号
香川県教育会館602号
TEL (087) 835-2721
FAX (087) 835-2723

新しい時代の教育環境実現に向けて 要望内容が大きく前進

文部科学省の諮問機関である中教審の特別部会は八月二十日、小学五・六年の授業において「教科担任制」を二〇二二年度をめどに本格導入するよう求める骨子案をまとめた。対象とするのは外国語(英語)、理科、算数の三教科である。系統的な学びを重視し、中学校での学習に円滑につながることを目的としている。小学校高学年においての「教科担任制」の導入にあたっては、香教連の重点事項として、国や県等の各関係機関に強く要望していた。

小学校では、各学級の担任教員が全ての教科を教えることが多いが、高学年の学習内容は専門性が高く、よりきめ細かい指導が必要との指摘があった。

導入により、さらなる授業の質の向上、教員の持ちこたえの軽減や授業準備の効率化が進むと見込まれ、教職員の働き方改革にもつながると期待されている。

骨子案のポイント

- 二〇二二年度をめどに小学校五・六年で教科担任制を本格導入
- 対象教科として、外国語(英語)・理科・算数の三教科
- 教科担任制を拡大し、教育の質の向上や教職員の働き方改革につなげる
- 教員免許制度の整備(小学校や中学校両方でのより円滑な指導に向けて)

昨今の状況を踏まえて、 さぬき市教委・東かがわ市教委へ要望

八月二十五日(火)十六時三十分より、さぬき市教育委員会二階会議室においてさぬき市教育委員会と、八月二十六日(水)十七時より、東かがわ市役所二階会議室において東かがわ市教育委員会と、それぞれ要望を行った。

重点項目として以下のことについて要望した。

- 校務分掌・学校行事・職員会議・研修会等を精選し業務のスリム化を図ること。
- 校務分掌や業務量の偏りが無いよう個々の勤務時間を把握し、適正な勤務になるよう校長を指導すること。

毎月10日発行 定価1部50円
(年間1,000円 送料とも)
会員の購読費は会費の中を含む



教

香教連は、結成四十六年を迎え、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

- 教職員の勤務実態を分析し、分掌や生徒指導等で過度に負担がかかっている職員の支援を行う体制になるようにすること。
- 放課後の電話対応を留守番電話にすること。
- 教育委員会への報告書・調査書等の削減・簡素化を図ること。また、報告書・調査書作成の時間を確保するために、締め切りには余裕をもたせるよう配慮すること。
- インターネットやタブレット機器等のICT環境を整備したり、校務支援ソフトを円滑に運用したりし、教職員に過度に負担がかからないようにすること。
- 拡大印刷機や丁合機等の事務機器の充実を促進し、事務の効率を図られるようにすること。
- 東かがわ市、さぬき市それぞれの学校の各職員のメールアドレスをTe.C.o.m.p@.sに登録し活用できるようにすること。
- 土曜日課外授業の内容及び方法について改善を図り、教職員に負担がかからないようにすること。
- スクールサポートスタッフや部活動指導員等の専門スタッフを必要とする学校に配置し、長時間勤務の解消を図り、児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備すること。
- 特別支援教育支援員の増員を継続し、学習面や生活面等で配慮が必要な児童生徒の支援を図ること。
- 学校図書館支援員を継続配置を図り、児童生徒に向き合える時間を確保できるようにすること。
- 病気休暇、介護休暇、研修等に対する代替講師が配置されるようになること。また、年度をまたいだ講師配置の場合、同一校で勤務できるように配慮すること。
- 教職員が意欲を持って業務できるように、管理職は責任職としての自覚を持ち、指導力・見識・協調性を発揮して、その職務を遂行するよう指導すること。
- 児童に配布するタブレットの運用について、教職員の負担が過度にかからないように配慮すること。また、使用するアプリやソフトについては、十分にヒアリングを行う等して教育現場で使いやすくなるよう配慮すること。
- 施設や設備の故障・不具合を早急に直し、児童生徒が健康で安全に過ごすことができる学校環境にすること。
- 大型ディスプレイや電子黒板を各教室に配備すること。
- 特別支援の児童・生徒や来客用、また必要とする職員のために、ウォッシュレット付きのトイレを各学校に設置すること。

温故知新

今回は「認めることは信じること」です。

○「ほめる だけではない」「やる気」を引き出すためには、子どもをやる気を引き出すためにはほめればよいのか、というところではないとあります。ほめるという行為は使いたい方を間違えるときと時として、評価の基準となり、行われないと行動のできない関係になってしまえば、「自立」を育てることができないからです。ではどのような接し方をすればよいのでしょうか。それは、やはりほめたり、不必要に叱ったりするのはなく、子どもを「認める」という考え方を基本として接していくことです。子どもの「自覚」「潜在能力」「自己修復能力」そして「自己」を認めて接していくという行動です。その考えを柱に全ての言葉を考えて、子どもへの行動を決めるのです。それは、子どもを認める、というのとは違うようなことでしょうか。簡単に言うならば、子ども個人の内、力を認めてもよいかもしれない。例えば、子どもに何らかの行動改善を迫るとき、理詰めで「あなたは〇〇が△だから、◇のようにしなさい」と上から目線で命令のように言うのではなく、まずは、以前までの子どもの状況に共感することから始めます。そして、その子どもが「行動改善」できる素質があることを認め、その上で、改善案を差し出して「主体的に子どもが改善することを信頼する」旨を伝えます。

子どもが授業中に騒いでしまい、妨害するような際でも、頭ごなしに叱りつけるのではなく、「あなたがそのような行動をしたことがとても残念だ」とがっかりしてあげます。その土台には「私はあなたを信頼していたのに」という前提が必要になることは言うまでもありません。

○信頼が何よりの安心感

そして何より「あなたならできると信じているから」と信じている姿勢は絶対に崩さず子どもに接します。どうせできないだろうから、という思考は排除して「こうすればできる」「必ずできるように方法がある」と信じるようにするのです。だから、少々高いハードルでも積極的に対応できるように与え、命令するのではなく子どもを信頼して越えてくれることを待ちます。もちろん、自力ではハードルを越えることができません。立ち止まってしまう子どももいますが、それでも越えてくれることを期待して待ちます。自分から救いを求めてきたのであれば、もちろん手を貸しますが、こちらから手を貸さないとできないだろう、と決めつけて行動を起こすようなことは決してしません。

やる気を起こさせるための魔法の言葉などが存在するとは考えていませんが、個々の存在を認め、それぞれが持つ力や信じる姿勢も知れれば、「子どものやる気を引き出す秘訣」と言えるのかも知れません。

○信じてほめない言葉

それは「お前はダメだ」「やっても無理」などの子ども自身が持つ力を否定する言葉です。これは潜在意識に残り、今後の行動に大きな影響を及ぼす可能性があります。それでも子どもが、その否定を跳ね除け、強い気持ちをもち努力していくことを期待する、と言われたいかもしれません。しかし多くの場合は「また否定されるだろう」「どうせ期待されていない、まあいいか」と潜在意識の中で行動が足枷になってしまふ可能性が非常に高いのです。そこで、本当に途切れた様子を見た先生が言う一言が「ほら、やっばりな」と追い打ちをかけたなら、二度と子どもがチャレンジをすることはなくなるでしょう。子どもの伸びる芽を平気で摘むことのないように、日頃の言動から常に意識して接することが重要ではないでしょうか。(顯)